

『かみさまにごあいさつ』

ぼくのいえでは、お正月になるとかならずかぞくでちかくのじんじゃにはつもうでに出かけます。ほいくえんにいっていたときには、なんでお正月にじんじゃにはつもうですのかよくわからなかったけれど、かぞくと出かけていきました。ことし、ぼくは小学校一ねんせいになったので、おとうさんとおかあさんに

「どうして、お正月になると、かぞくでじんじゃにはつもうでに行くの。」

とおもいきってきいてみることにしました。すると、おとうさんは、

「ことしもよいとしになりますようにつかみさまにおねがいしたり、ごあいさつをしたりするためにいくんだよ。」

とおしえてくれました。

「かみさまにごあいさつしていたのなら、もっとしっかりしておけばよかった。」

とおもいました。おかあさんは、

「じゃあことしからしっかりあいさつするためのほうほうをやってみよう。」

とくわしくぼくにおしえてくれました。

まず、じんじゃの入り口にあるもんをとりいって、まん中はかみさまのおるばしよだから、ぼくたちはおじぎをして、はしっこをあるきます。つぎに、手や口をきよめるために、手水しゃにいて、ひしゃくをつかってあらいます。このときのさほうも、ひだり手、みぎ手、口、ひだり手、ひしゃくというじゅんばんがあるのをしって、おどろきました。

そして、ほんでんにおまいりするときは、二かいおじぎをして、手を二かいたたきます。そのときにかみさまにおねがいごとをして、さいごにもう一ど、おじぎをしました。ことしぼくのかみさまへのおねがいは、

「せかいがへいわになりますように。」

といいました。手水しゃにいったとき、コロナによって手や口をきよめることをちゅうししていました。これまでどおり正しくかみさまにおまいりすることができなくてざんねんでした。だからぼくは、コロナがおちついてせかいへいわになってほしいです。

また、はつもうでは、おみくじをひきました。ぼくのおみくじはすえきちでした。ちよつとかなしかつたけれど、べんきょうもうんどもこれからもっとけっかがよくなるとかいてあったので、ことしもいろいろなことをがんばりたいとおもいます。

ほいくえんときは、なんでお正月にはつもうでに行くのかわからずについていていたけれど、こんなにもたくさんのさほうやいみがあるものなのだとおどろきました。こんなぶんかがある日本人にうまれてよかったなとおもいました。これからおとなになってもお正月にはかぞくではつもうでにいて、かみさまにごあいさつをしていきたいです。